

## 高校教員から見た「小中高一貫地理カリキュラム」に思うところ

—地図・GIS を中心に—

伊藤 智章 (静岡県立富士東高等学校)

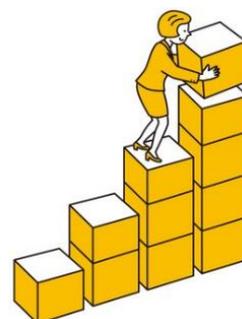
### 1. 問題の所在

#### (1) なぜ今「カリキュラム」を考えなければならないのか？

- 地理教育研究におけるカリキュラム論は、古くて新しいテーマ。時代や環境、ツールの変化に合わせてカスタマイズする必要がある  
滝口 (1973), 山口ほか編 (2008)
- 「ナショナルスタンダード」「ミニマム・エッセンシャルズ」を定める  
安藤ら (1988), 管野 (2018)
- 高校の地理教育の立て直し・新課程移行による混乱への対処
  - ・生徒の学力低下、実地経験の不足、「必修化」に伴う多様な学力層への対応  
泉 (2014)
  - ・高校地理歴科における地理軽視のつけ 戸井田 (2012)
  - ・高校地理教育を受けてこなかった (受けられなかった) 若手教員 (ノンプロパー) が主な担い手に→実力を疑問視するものの、従来の方法論から抜け出せない“オールドプロパー”とのせめぎ合い 伊藤 (2017)
  - ・「カリキュラム」慣れしていない現場
  - ・カリキュラムの“ガラパゴス化”・・・自国の教科書や学習指導要領を他国との比較を通じて客観視する機会が少ない 金 (2012), 吉田 (2012)

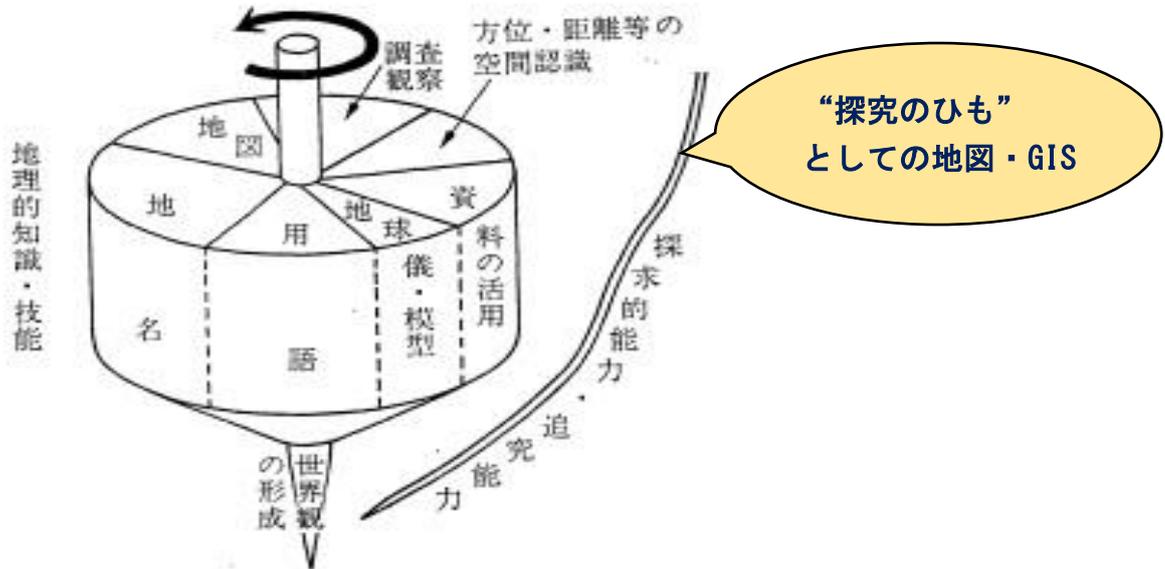
#### (2) 「積み上げ型」カリキュラムは本当に成り立つのか？

- 「必修化」に伴い、多様な生徒に「地理」を教えなければならない高校教員  
**“小学生レベル”の知識や技能が身につけていない高校生**
  - ・何が「小学生レベル」で、何が「中学生レベル」なのか？わかっていない
  - ・土台ができていない生徒に高度な知識や概念を積み上げができない無力感
  - ・単元の網羅的な学習→前に学習した単元は置き去りに  
(特に地図やGISの分野では顕著である)



## 2. 「コマ型」カリキュラムと地図・GISの位置づけ

○コマ型の能力定着（安藤ら：前掲 1998）



安藤ら（1988）に報告者加筆

○GISを使うことで深まる学び・・・**地図・GISは探究学習のひもである**

→必須の教材として各国のナショナルスタンダードに明記 國原（2012）

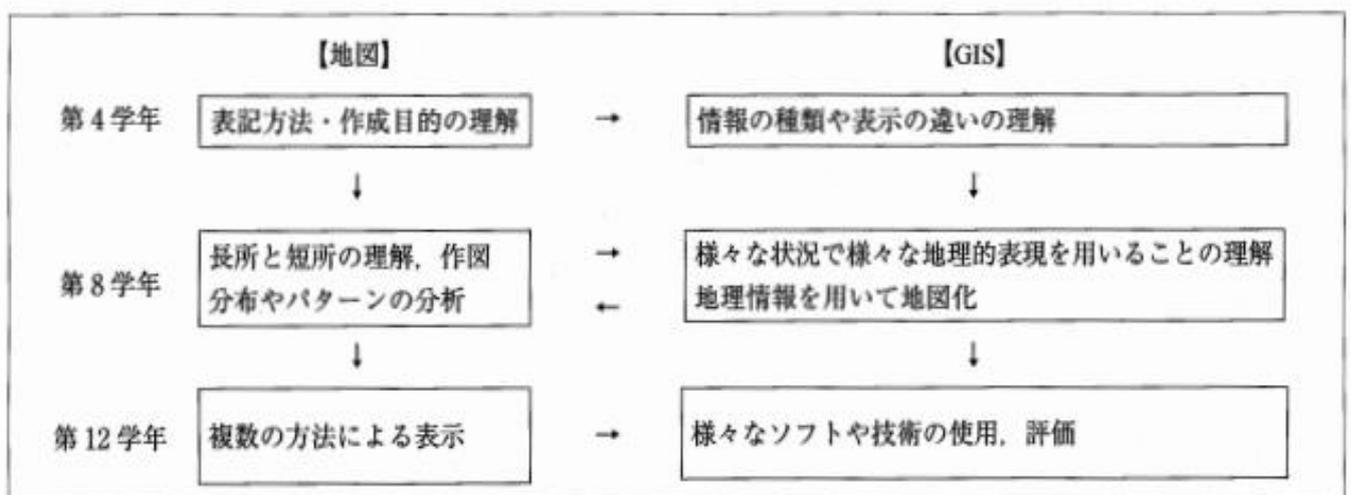
○小学校～中学校サイズの「コマ」に合わせた「ひも」を作る

○“一人一台端末”の普及・・・誰もが大きな「コマ」を所持している

○「地図」の活用と「GIS」の活用の相互補完作用を生かして「地図力」アップ

→**コマの大きさ・厚さに合わせた「ひも」を作り、回す機会を確保できるか**

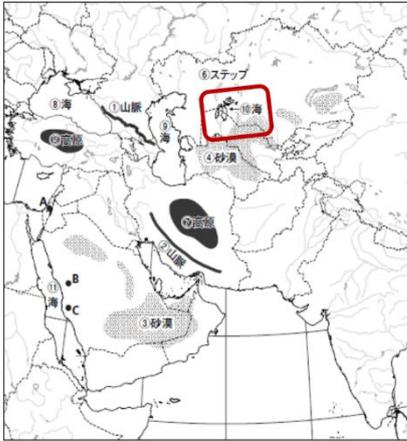
**地図の活用スキルとGISの活用スキルは並列的に習得すべき**



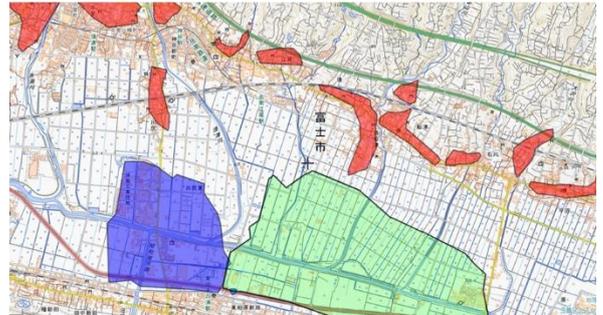
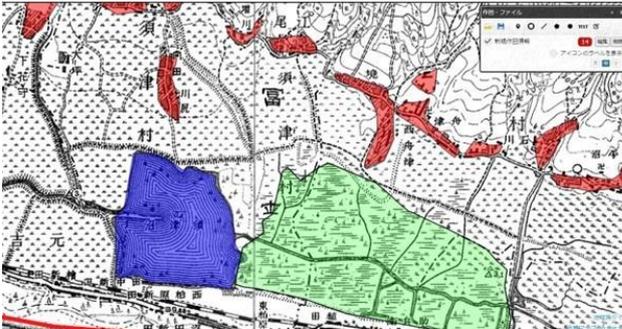
國原（2012より）

### 3. 最近の授業から

#### (1) 講義形式授業での地名・位置の把握 (ニノマップなど)



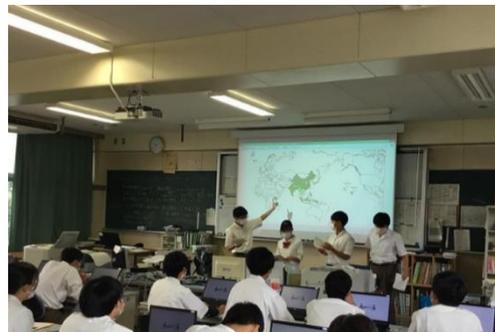
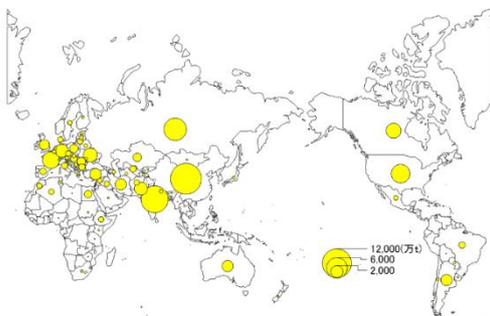
#### (2) 新旧地図への書き込みによる災害の被害想定 (全国Q地図)



#### (3) フィールドワークでの携帯 GIS 活用 (地理院地図・今昔マップ)

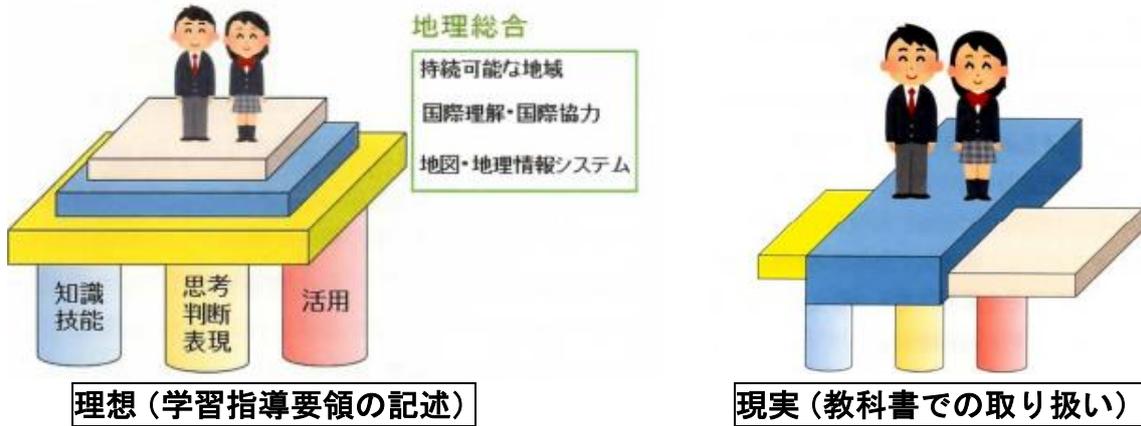


#### (4) 統計資料の地図化と比較・重ね合わせと発表 (MANDARA)



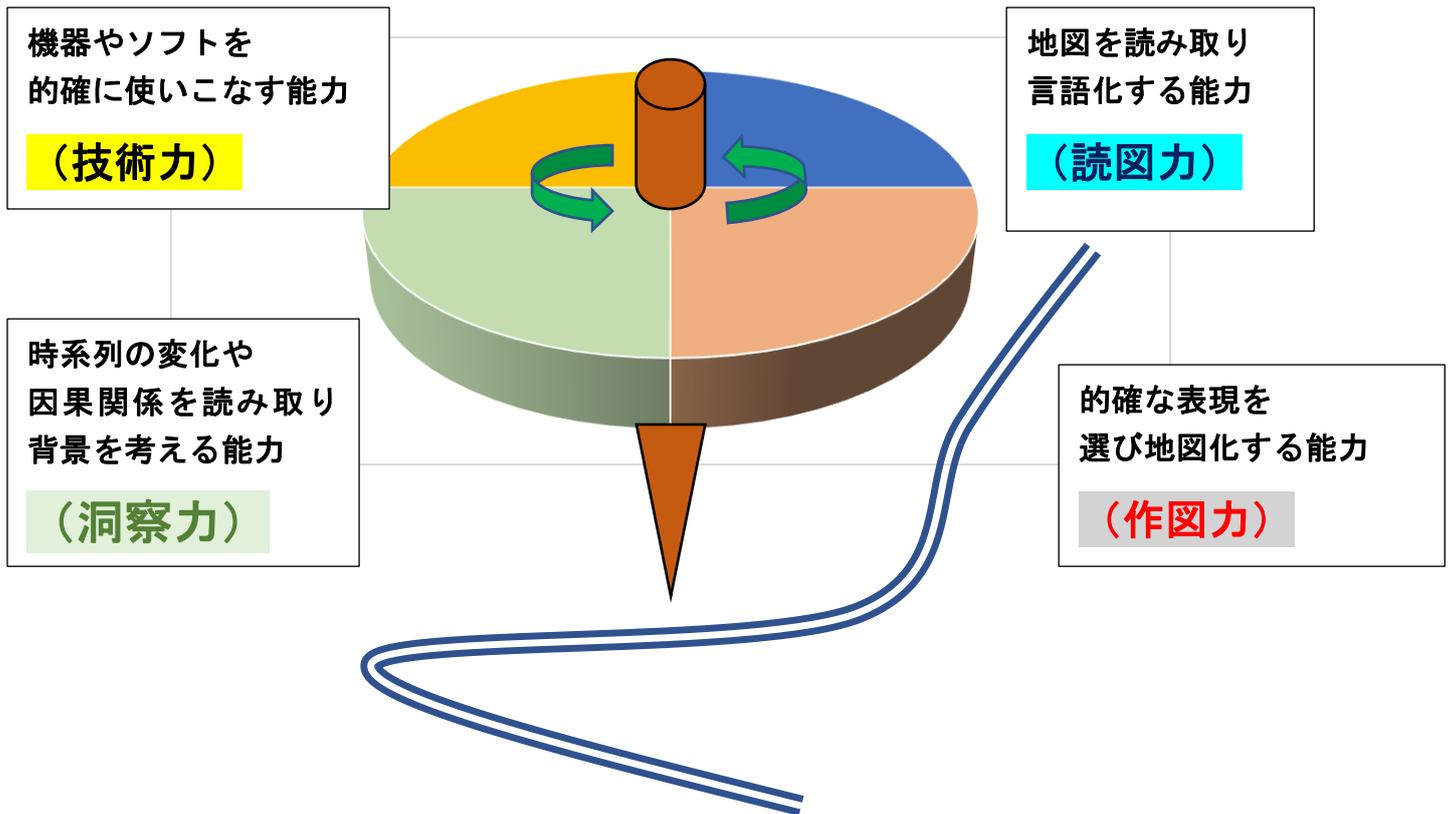
#### 4. 今後の課題（まとめに代えて）

地理総合(2022年度より高校で必修)の3つの柱と3つのステージ(伊藤:2019)



#### 地図・GISが「探究のひも」になりえていないまま現場に

- 行政機関、既存の産業(教科書出版業界・受験産業)の限界
- 足りない部分は現場の努力で補う必要(個人技ではなく組織的な議論で)
- 次期学習指導要領(2032年実施)に向けた布石



## 【文献】

- 安藤 正紀・岩本 廣美・田部 俊充・寺本 潔・松井 美佐子 吉田 和義(1988)  
「小学生が習得すべき地理的知識・技能のミニマム・エッセンシャルズ(第1報)  
—問題点の指摘を中心に—, 新地理 36(3), pp. 4-13.
- 泉 貴久(2004)「高等学校からみた地理教育一貫カリキュラムのあり方」, 日本地理学会  
発表要旨集, 24p
- 伊藤 智章(2017)「必修化に向けた高校地理の改革—現場の実践と地理学教室への期待  
—」, 立命館地理学 (29), pp. 11-19.
- 伊藤 智章(2019)「「いとちりの防災教育に GIS 2-1—『地理総合』の3つの柱と3つ  
のステージ」, 地理月報 (555), 18~19 頁.
- 金 玄辰(2012)「地理教育の世界的動向—カリキュラム分析を通して」, e-journal  
Geo7(1), pp. 82-89.
- 國原 幸一郎(2012)「意思決定までの学習過程からみた地理教育における GIS の役割 :  
全米地理教育スタンダードとナショナル・カリキュラム地理を手がかりに」, 中等社会  
科教育研究(31), pp. 101-112.
- 管野 友佳(2018)「小中高一貫地理カリキュラムにおける地理的概念の原理—オース  
トラリア連邦ニューサウスウェールズ州地理シラバス 2015 年版の場合—」, 新地理  
66(3), pp. 1-11.
- 滝口 昭二(1973)「小中高における地理的見方考え方の系統. 新地理, 21 (2), pp. 20  
-32.
- 戸井田 克己(2012)「高校地理カリキュラムの方向性を考える」, e-journal Geo  
7(1), pp. 19-26.
- 山口 幸男編(2008)『地理教育カリキュラムの創造 小・中・高一貫カリキュラム』, 古  
今書院, 250p.
- 吉田 剛(2012)「地理的基本概念からみる地理カリキュラムにおける2つの類型 : 香  
港・英国・米国・シンガポール・我が国の比較」, 宮城教育大学紀要(47), pp. 71-83.